
平成26年3月期
第2四半期決算説明会

平成25年11月7日

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>

目次

I**平成26年3月期 上期実績****II****主要施策の状況****III****平成26年3月期 通期見通し**

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の売上高および利益などの予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、お客様の動向など、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益などは、本資料に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

I . 平成26年3月期 上期実績

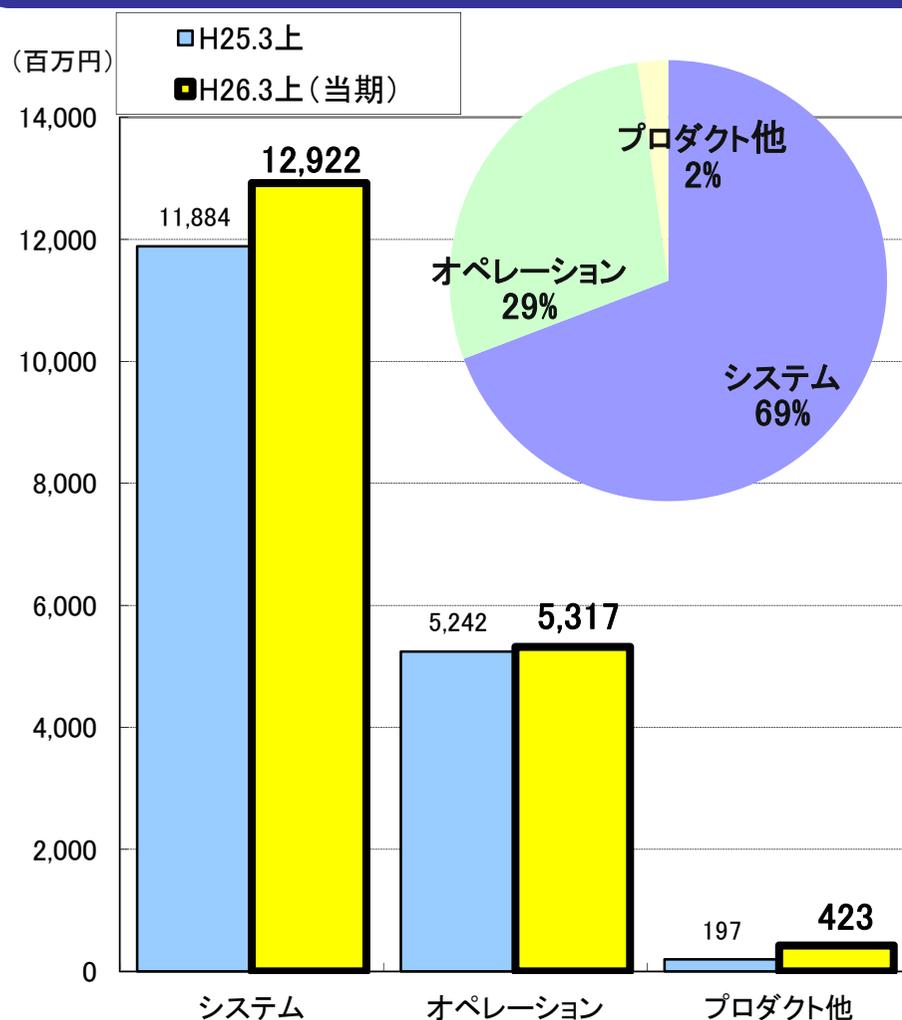
平成26年3月期上期 単体・業績実績

売上高が前年同期比107.7%、営業利益が前年同期比123.6%と
 売上高、利益ともに大幅に増加

(単位：百万円、%)	金額		売上比		前年同期比		当初予想比	
	金額	売上比	前年同期比	増減	当初予想比	増減		
売上高	18,663	—	107.7%	+1,338	104.6%	+813		
売上総利益	3,298	17.7%	118.1%	+ 506	113.8%	+398		
販管費	1,627	8.7%	113.0%	+187	95.7%	▲72		
営業利益	1,671	9.0%	123.6%	+318	139.3%	+471		
経常利益	1,812	9.7%	123.6%	+345	139.5%	+512		
四半期純利益	1,124	6.0%	124.1%	+218	140.6%	+324		

単体・品目別売上高

システムは、銀行の大型案件が牽引し、大幅に増加。
 オペレーションは堅調に推移し、プロダクトはPC特需で倍増



システム (前年同期比 108.7%)

銀行大型案件が大幅伸長し、その他、信託銀行、証券など幅広い顧客の開発案件が堅調に推移。また製造業や建設・不動産業などでも新規案件を獲得し、増加

オペレーション (前年同期比 101.4%)

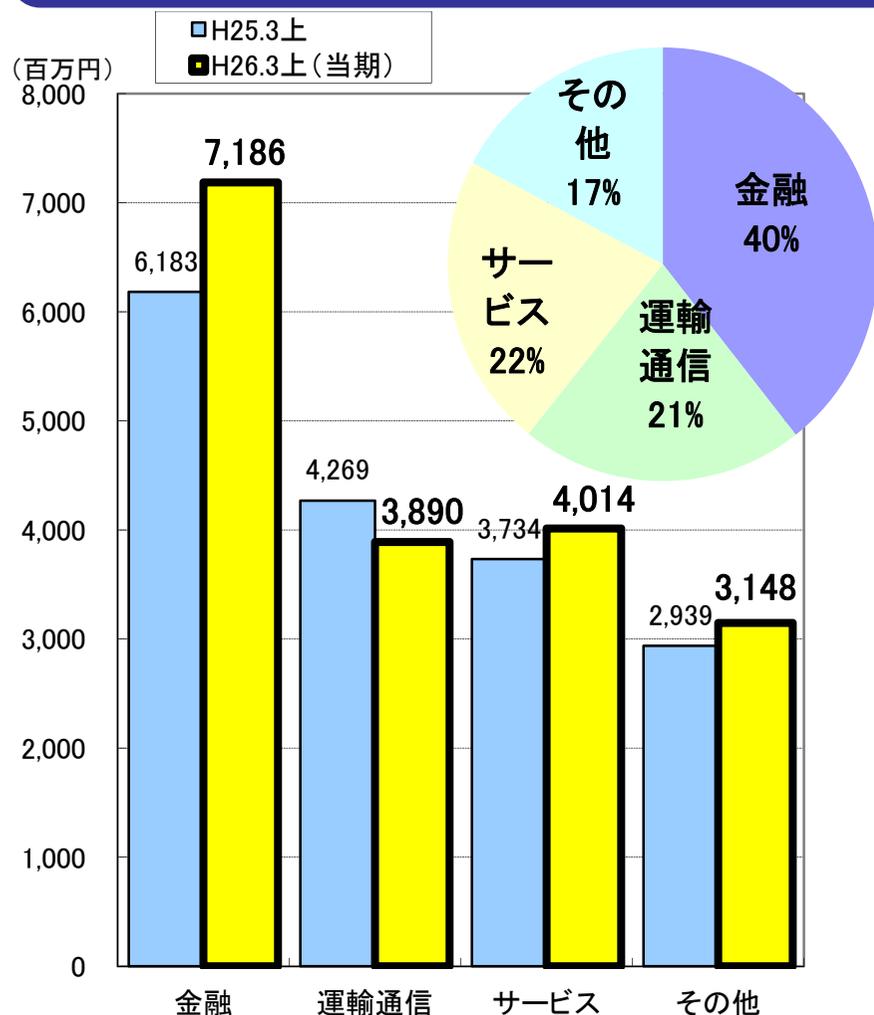
一部案件でサービス終了があったが、クラウド事業者における運用案件の増加があり、全体としては増収

プロダクト他 (前年同期比 213.7%)

パソコン更改などの特需があり、倍増

単体・エンドユーザ業種別売上高

金融業は銀行大型案件の拡大により、大幅に増加。運輸通信業の減少があるも、サービス業、その他業種は新規受注により増加



金融業 (前年同期比 116.2%)
銀行大型案件等が大幅伸長。その他にも、信託銀行、証券など幅広い顧客の開発案件が堅調に推移し、大幅に増加

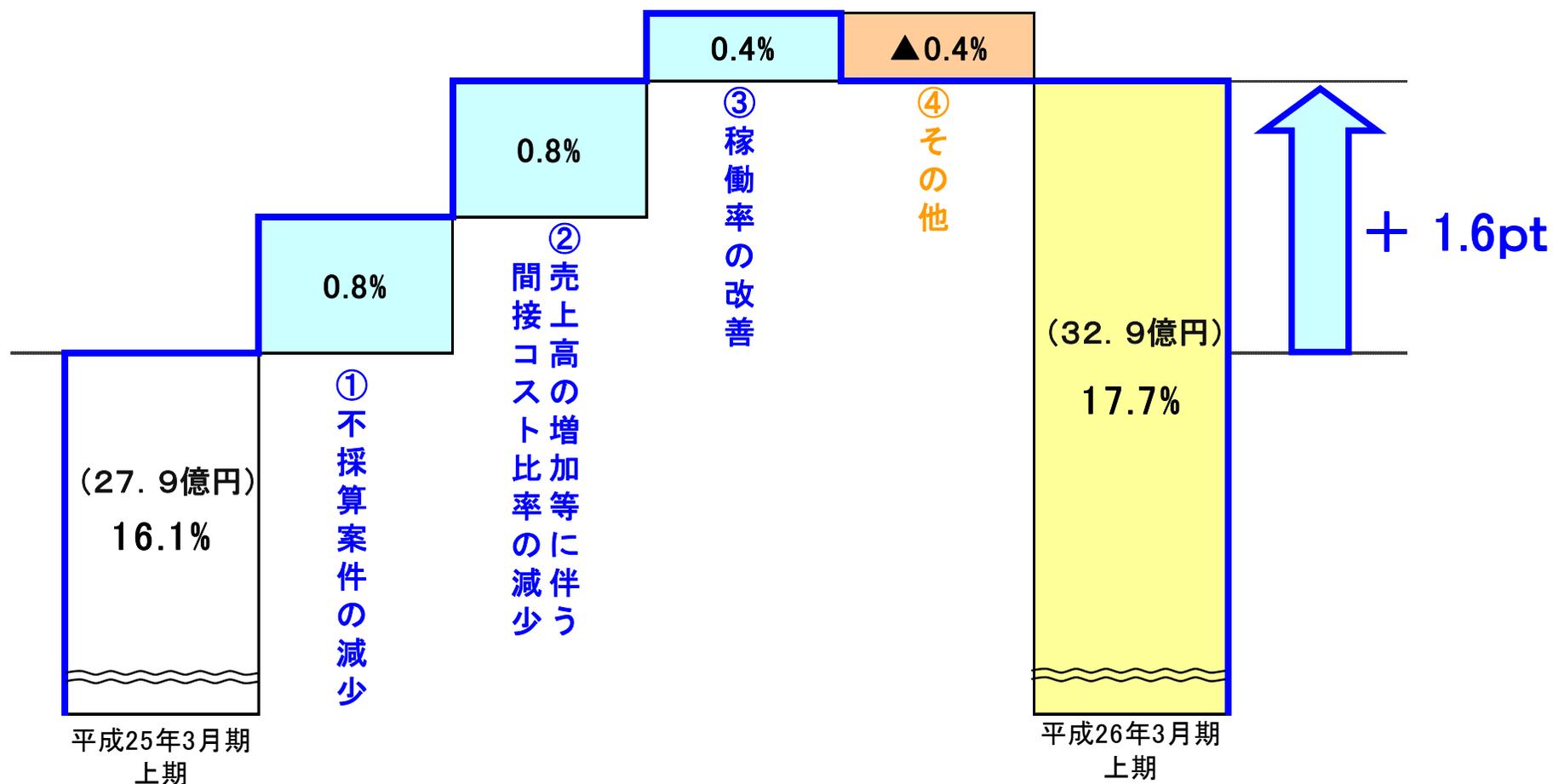
運輸通信業 (前年同期比 91.1%)
通信は顧客企業の投資抑制により減少。運輸も前年同期主要案件のサービス開始により減少

サービス業 (前年同期比 107.5%)
インターネット関連会社など幅広い顧客で増加

その他 (前年同期比 107.1%)
製造業や建設不動産業で新規案件を獲得し増加

単体・売上総利益率

プロジェクト管理の徹底による不採算案件の減少や、間接コストの減少などにより、売上総利益率が向上



単体・営業利益、経常利益

戦略的費用の支出により販管費は増加したが、売上増加による利益構造の改善により、営業利益率は向上

販管費 1,627百万円

- ・前年同期比113.0%
- ・売上比率8.7%（前年同期比+0.4pt）

・戦略的費用の増加 +211百万円
（提案力強化、新規事業創出に向けた体制整備等）
・その他費用 ▲24百万円

営業利益 1,671百万円

- ・前年同期比123.6%
- ・営業利益率9.0%（前年同期比+1.2pt）

経常利益 1,812百万円

- ・前年同期比123.6%
- ・経常利益率9.7%（前年同期比+1.2pt）

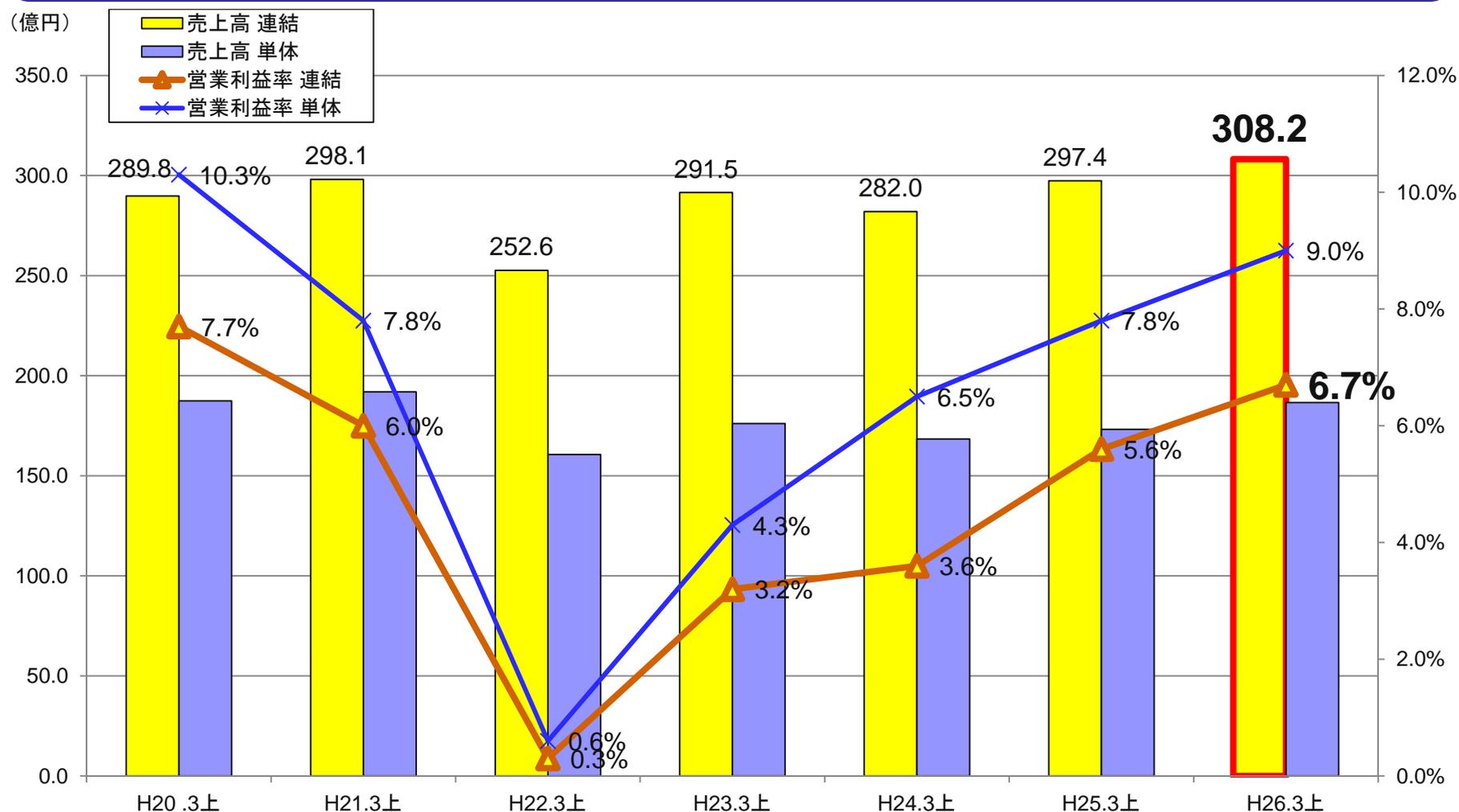
平成26年3月期上期 連結・業績実績

売上高は前年同期比103.6%、営業利益は前年同期比124.4%と増収増益を確保。当初予想比でも大きく増加

(単位：百万円、%)			前年同期比		当初予想比	
	金額	売上比				
売上高	30,821	—	103.6%	+1,078	102.1%	+621
売上総利益	4,944	16.0%	113.4%	+ 585	104.1%	+194
販管費	2,866	9.3%	106.6%	+178	94.0%	▲183
営業利益	2,077	6.7%	124.4%	+407	122.2%	+377
経常利益	2,111	6.9%	122.8%	+391	120.7%	+361
四半期純利益	1,123	3.6%	124.2%	+ 218	122.1%	+203

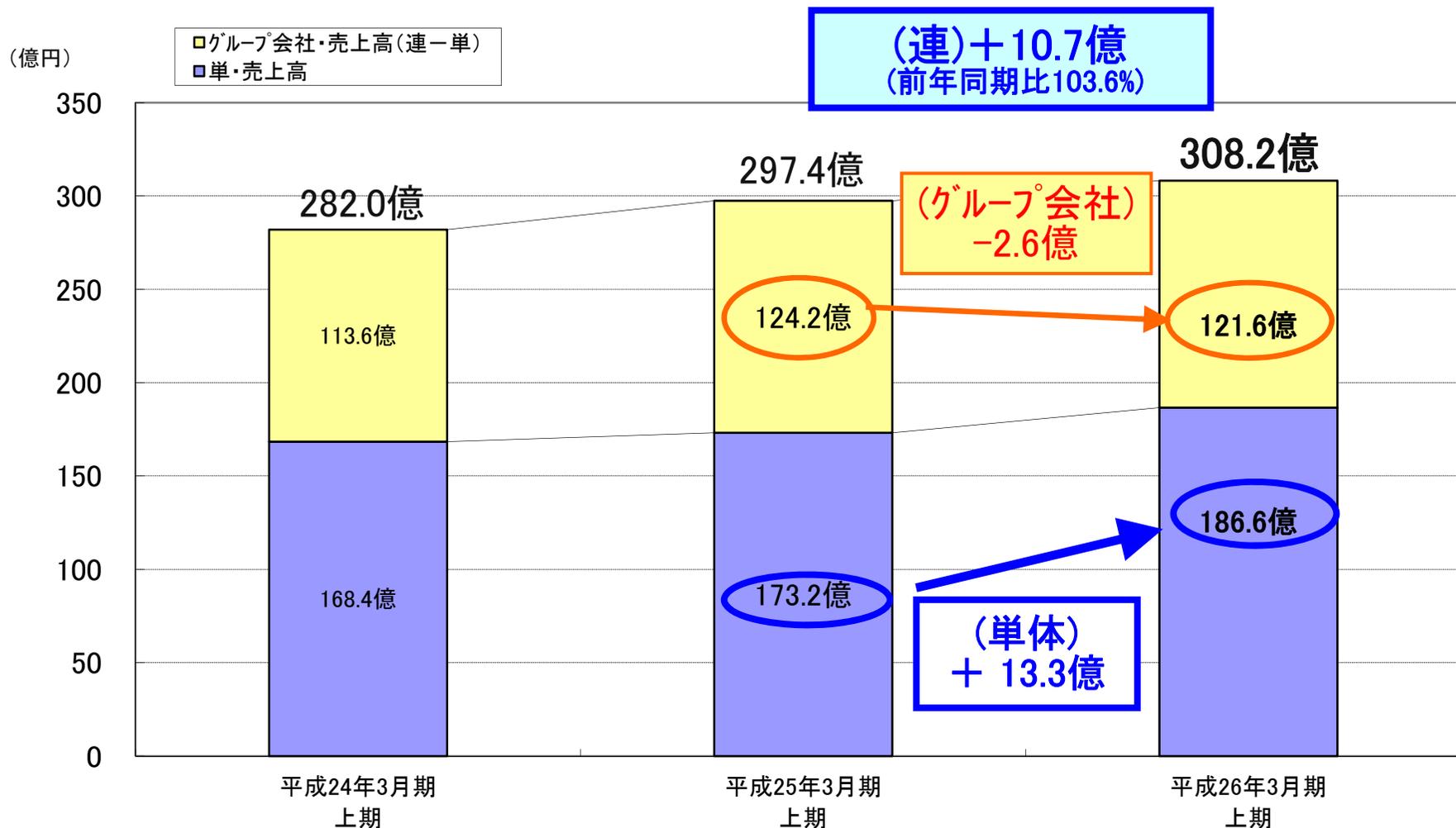
売上高・営業利益推移(上期)

連結売上高は、過去最高を更新。営業利益率も、過去5年で最高



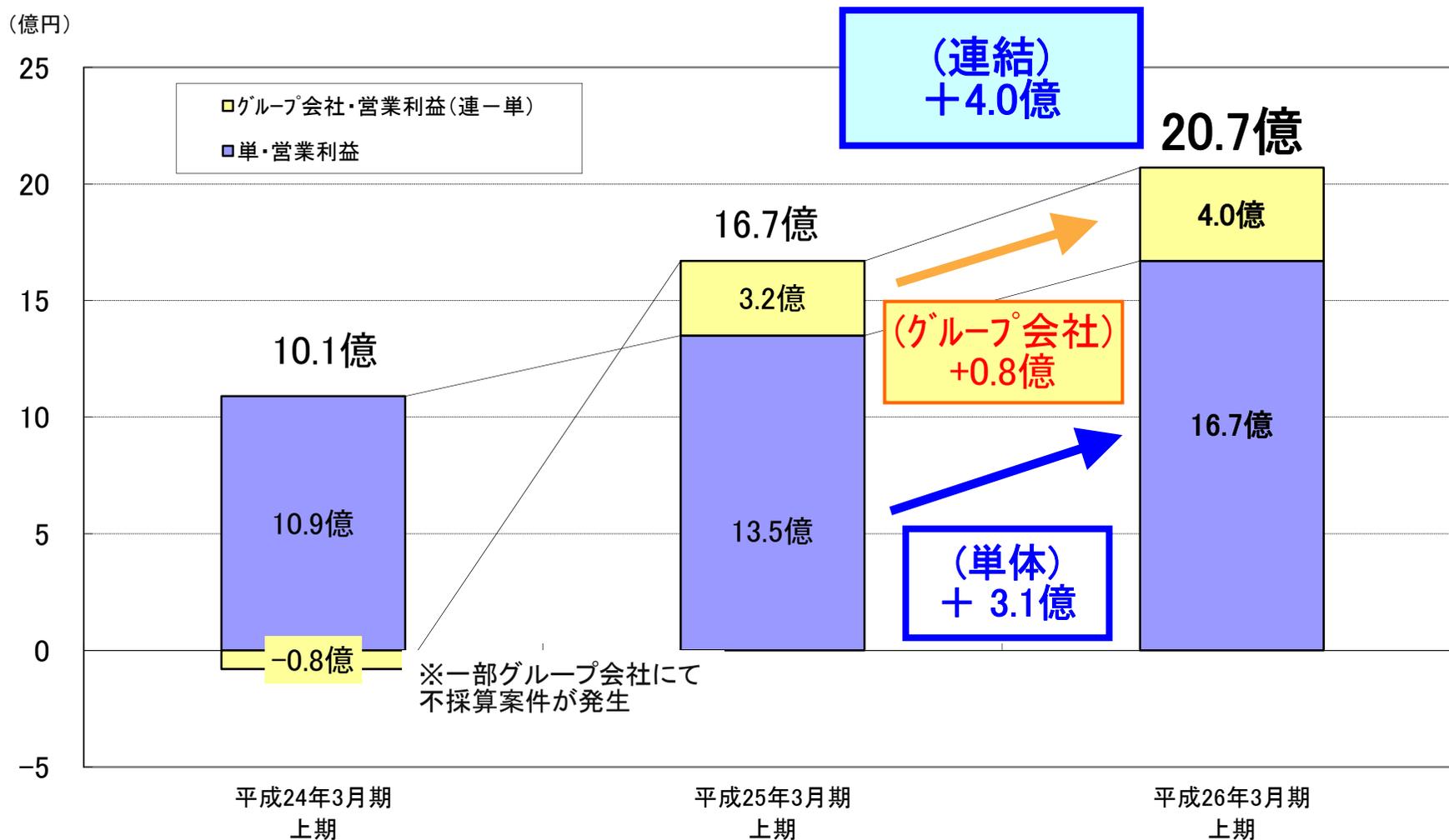
連結・売上高の内訳

一部グループ会社で、大型案件のサービス開始に伴う反動で売上減があったが、単体の売上が大幅に増加し、連結では増収を達成



連結・営業利益の内訳

グループ会社においても継続的な費用削減に取り組み、連結の増益に寄与。



平成26年3月期上期 業績実績(グループ会社)

社名	売上高			営業利益			
	金額	前年同期比	当初予想比	金額	売上比	前年同期比	当初予想比
データリンクス	3,996	103.0%	101.7%	156	3.9%	129.9%	126.0%
デジタルテクノロジー	3,525	99.7%	98.8%	55	1.6%	299.9%	94.8%
FAITEC	2,826	97.5%	103.9%	173	6.2%	161.8%	66.8%
日本SE	2,021	107.1%	97.3%	74	3.7%	74.0%	78.6%
総合システムサービス	593	98.4%	99.4%	49	8.3%	112.3%	165.1%
九州DTS	506	78.6%	80.3%	16	3.3%	61.1%	59.3%
MIRUCA	201	105.1%	112.9%	16	8.0%	336.4%	[+20]
DTS上海	127	-	88.1%	-22	-	-	[-36]

※各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません。

※[]は、当期金額－前期金額です。

※DTS上海は、今期から連結しています。

連結・受注

システムの受注高、受注残高が、大幅に増加。
 銀行大型案件をはじめ、製造業、サービス業の開発案件も寄与

(単位 : 百万円、%)

	受注高				受注残高			
	金額	構成比	前年同期比		金額	構成比	前年同期比	
情報サービス	25,545	92.0%	112.0%	+2,742	16,174	93.9%	113.8%	+1,957
システム	18,671	67.3%	118.5%	+2,914	10,956	63.6%	121.6%	+1,948
オペレーション	3,562	12.8%	82.9%	▲733	4,869	28.3%	97.0%	▲152
プロダクト他	3,310	11.9%	120.4%	560	347	2.0%	186.8%	161
人材サービス	2,207	8.0%	96.0%	▲91	1,041	6.1%	83.7%	▲203
合計	27,752	100.0%	110.6%	2,651	17,216	100.0%	111.3%	1,754

Ⅱ. 主要施策の状況

主要施策

- ①提案力の強化
- ②事業基盤の強化
- ③ビジネスモデルの変革
- ④経営基盤の拡充
- ⑤グループ総合力の結集

主要施策① 『提案力の強化』

上期

- ✓ 各事業本部の営業人員を増員し、営業体制を強化
- ✓ DTSグループ間の連携、協業を強化し、既存顧客の拡大と新規顧客開拓を推進

営業体制の
強化

- ・今後需要が見込める、金融・産業・公共のシステム開発、インフラ構築・アウトソーシングの各分野において、営業人員を4割増員
- ・営業担当の責任数字を明確化するKPIを導入するとともに、全社営業戦略会議を立ち上げ、各事業部の案件や受注状況を隔週で管理し、アクションを実施

グループ間の
連携強化

- ・グループ全体でソリューションマッチング会議を開催し、グループ各社の企画やソリューションの共有を図ることにより、顧客開拓を推進

下期

- 顧客満足度の向上を図り、来期以降の売上拡大に向け、さらなる取り組みを推進

主要施策② 『事業基盤の強化』

上期

- ✓ 金融・通信に続く『第三の柱』の育成や、グローバルビジネス基盤の構築を推進
- ✓ プロジェクトにおける確実な利益確保

『第三の柱』の
育成

・「組込み」や「パッケージソリューション」の事業拡大に向け、M&Aや他社とのアライアンスの実現に向けた活動を推進中

グローバル展開

・東南アジアをターゲットに、オフショアやBPOサービスの新たな拠点設立に向けて準備中

プロジェクトの
確実な利益確保

・事業本部、支社でプロジェクト管理を徹底し、赤字削減に寄与。順次、グループ会社にも展開

下期

- 『第三の柱』の育成のための他社協業や、海外拠点設立の実現を目指す

主要施策③ 『ビジネスモデルの変革』

上期

- ✓ イノベーション推進部を新設し、新規事業の創出やマーケティング力の強化を推進
- ✓ 有望領域の技術調査や対外交流の積極化により技術革新を促進

新規事業
の創出

・イノベーション推進部を旗振り役として、医療、ビッグデータなどの分野を中心に、各事業部から新規事業や商品企画が提案される仕組みを構築

技術革新の
促進

・モバイル、ビッグデータの最新技術の応用を図り、実用化に向け実証実験等を推進
 ・『他流試合』と称した対外研究活動や研修に積極的に参加し、マーケティングやIT技術を社内にフィードバック

下期

- 各事業部においてマーケティング活動の体制を強化し、新規事業企画の促進を図る

主要施策④ 『経営基盤の拡充』

上期

- ✓ 環境の変化に応じた柔軟な組織体制の構築に向け、今期より事業部・担当制を導入
- ✓ 営業、高度技術者、グローバルの3分野において人材育成を強化

組織改革の
推進

- ・今期より『事業部制、担当制』を導入。環境の変化や事業戦略の見直しに応じて柔軟な組織変更が可能な体制を整え、リソースのさらなる有効活用を推進

人材育成
の強化

- ・提案力の強化に向けた営業のロールモデル人材を育成
- ・高度技術者の育成人数をKPIに設定し、組織における育成体制を強化
- ・グローバル人材育成に向けた海外研修を実施

下期

- 幹部候補生の育成も開始し、人材育成のさらなる充実と強化を図る

主要施策⑤ 『グループ総合力の結集』

上期

- ✓ グループ再編に向けた検討開始
- ✓ グループ経営情報の共有、有効活用に向けた仕組みを検討。経営判断の早期化を推進

FAITEC合併

- ・年金、保険等の金融分野に特化したSIerであるFAITECを100%子会社化し、平成26年4月に合併予定
- ・システム開発需要の増大が見込まれる金融分野における業容拡大と、経営効率化・意思決定の迅速化を図る

グループ経営情報の共有

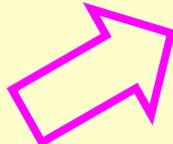
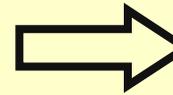
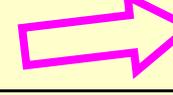
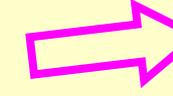
- ・グループ各社からの情報連携の充実や早期化を推進するとともに、情報共有の仕組みを構築

下期

- グループ総合力の結集を目指し、グループ最適化を推進

Ⅲ. 平成26年3月期 通期見通し

事業環境の見通し

業種		トピックス	市場動向
金融	銀行	大型案件は開発本格化。決済系・情報系案件は開発継続中。海外案件も開発着手へ	
	信託・生損保	信託の統合案件はサービス開始に向けた対応を継続。生保は大型案件が保守フェーズに移行	
	証券	AMO案件やインフラ構築、PC導入を中心に安定受注を見込む	
運輸 通信	通信	主要キャリアは投資抑制傾向。IDC事業者向けクラウド基盤は引き続き需要増	
	運輸	空運の大型案件は保守フェーズに移行するも、新たな顧客での開発案件が拡大	
サービス		底堅いIT投資需要により幅広い顧客で拡大基調	
製造/公共/卸小売 ほか		ERPは人事系を中心に堅調。組込みは車載やスマートメータで需要増。公共は国民ID、卸小売は積極投資に期待	

平成26年3月期 通期業績予想

(単位：百万円、%)

	単体				連結			
	金額	売上比率	前年同期比		金額	売上比率	前年同期比	
売上高	38,000	-	103.8%	+1,392	62,000	-	101.6%	+960
売上総利益	6,550	17.2%	107.3%	+445	10,200	16.5%	109.0%	+840
販管費	3,400	8.9%	114.2%	+423	6,100	9.8%	113.9%	+743
営業利益	3,150	8.3%	100.7%	+22	4,100	6.6%	102.4%	+97
経常利益	3,300	8.7%	100.6%	+18	4,150	6.7%	101.3%	+55
当期純利益	2,050	5.4%	100.5%	+9	2,200	3.5%	101.0%	+23

平成26年3月期 通期業績予想(グループ会社)

(単位：百万円、%)

社名	売上高		営業利益		
	金額	前年同期比	金額	売上比	前年同期比
データリンクス	7,980	103.3%	240	3.0%	105.3%
デジタルテクノロジー	6,200	89.2%	100	1.6%	179.7%
FAITEC	5,700	97.6%	480	8.4%	131.3%
日本SE	4,397	109.9%	290	6.6%	104.8%
九州DTS	1,200	95.1%	59	5.0%	96.6%
総合システムサービス	1,200	100.0%	90	7.5%	88.9%
MIRUCA	373	105.8%	20	5.4%	[+27]
DTS上海	296	—	18	6.1%	

※各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません。

※[]は、当期金額－前期金額です。

配当

第2四半期末配当は、当初予定どおり一株当たり15円。
 通期では、一株当たり30円、配当性向32.4%を見込む

	第2四半期末	期末	年間	配当性向 (連結)
平成25年3月期	15円	20円 (記念配当5円)	35円	38.2%
平成26年3月期	15円	(予)15円	(予)30円	(予)32.4%

平成26年3月期
第2四半期決算説明会

ご清聴ありがとうございました

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>